

「お経」「正信偈」とは

「お経」とは、お釈迦さまのご説法をお弟子が文字として書きとめたものです。

現在読まれているお経は、中国で註釈編纂されたものですので、漢文になっています。

「正信偈しょうしんげ」とは、お釈迦さまがお説きになられた、仏説無量寿経ぶつせつむりやうじゆきやうを中心とした、阿弥陀さまの救いと、それをつけた七高僧しちこうそうのお示しを、親鸞聖人が浄土真宗の教え全体として、一編の詩に要約されたものです。

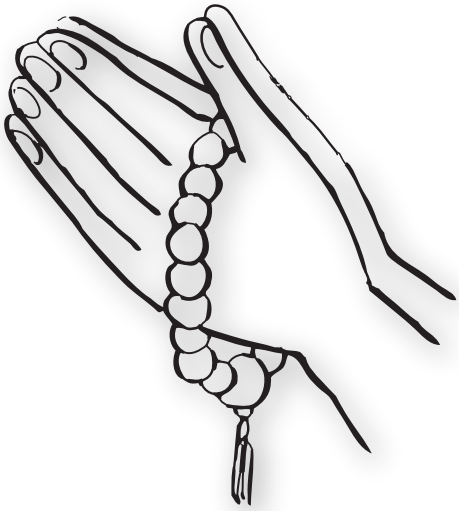
読経（勤行・お勤め）とは

浄土真宗での「読経どくぎやう」は、わたしを救うために働いてくださる、阿弥陀さまのお徳をほめたえ、お慈悲を仰いでゆくためのものです。

死者にささげるものでも、追善供養のためでもありません。

また、第八代の蓮如上人は、「正信偈」に親鸞聖人が読まれた和讃わさんを添え、お勤めする形態を整えられました。式章をかけ、お念珠を持ち、お経本を開いて、みなさん一緒にお勤め致しますしよじ。

念珠の持ち方《本願寺派（お西）の作法》



- ◆念珠は普段左手に持ち、房は自然に下に垂らします。（ご不自由な方は可能な手で持ちます）
- ◆合掌の際は、両手の親指とひとさし指の間に念珠をかけ、親指で軽く押さえます。念珠の房は自然に下に垂らします。
- ◆「南無阿弥陀仏」とお念仏となを称え礼拝します。
※浄土真宗では、手や珠をこすり合わせたり、音を鳴らしたりは致しません。

浄土真宗本願寺派《お西》

お参りの必需品

念珠 式章 経本